

安曇野の一大観光スポット「大王わさび農場」創業者

深澤 勇市(ふかざわ ゆういち)

穂高 矢原 (出身は梓川立田)

〈深澤勇市が活躍した時代〉 1886(明治19)年~1941(昭和16)年 享年55歳

明治			大正					昭和						
19	35	43	1	4	5	6	12	14	1	2	10	16	22	36
梓川村 立田に誕生。	明治三十五年、信越線篠ノ井線が開通。明科駅から東京神田市場にわさび出荷。評判が良く非常に高く売れた。	深澤家の養子となる。	二代目深澤勇市誕生。	大正四年信濃鉄道(大糸線)が開通。広大なわさび畑の開拓に着眼。5町村にまたがる所有者と交渉を開始。	信濃鉄道大糸線大町松本間全通。	三年の歳月をかけて十五丁歩の土地の所有に成功。3月開拓に着手。	古畑完成。関東大震災後のわさびブームで東のわさび畑が開かれた。震災で神岡県のわさび全滅。穂高のわさび出荷急増。	周囲の梨畑や水田がわさび畑へ。信濃鉄道大町松本間電化。	大王畑完成。大王神社をまつる。	「わさびのオアシス」北側の「北畑」が手掛けられる。	屋川河畔に近い「新畑」の完成。	逝去。二代目深澤勇市が遺志を継ぐ。	有限会社大王創業。	東畑完成。現在の広大なわさび田となる。

常に「人のため」を考え、暴れ川だった犀川の治水をしながら、不毛の河原に広大なわさび田をつくり上げた。



(大王わさび農場 蔵)

私財の全てを担保にして親子2代、46年をかけてつくれた。安曇野の守護神 八面大王が見守ってくれたんだ。

1915(大正4)年、大糸線(信濃鉄道)が開通。地元の穂高駅からわさびが出荷できることになった。深澤勇市はその1915年に土地所有者との交渉を始めた。しかし、その地は、多くが犀川対岸の明科、塔ノ原、光、田沢の人々が共有する共有地であり、その土地全ての所有者と交渉をするため実に3年の歳月を費やし、217戸の承諾を得て1917(大正6)年にわさび田造成に着手した。

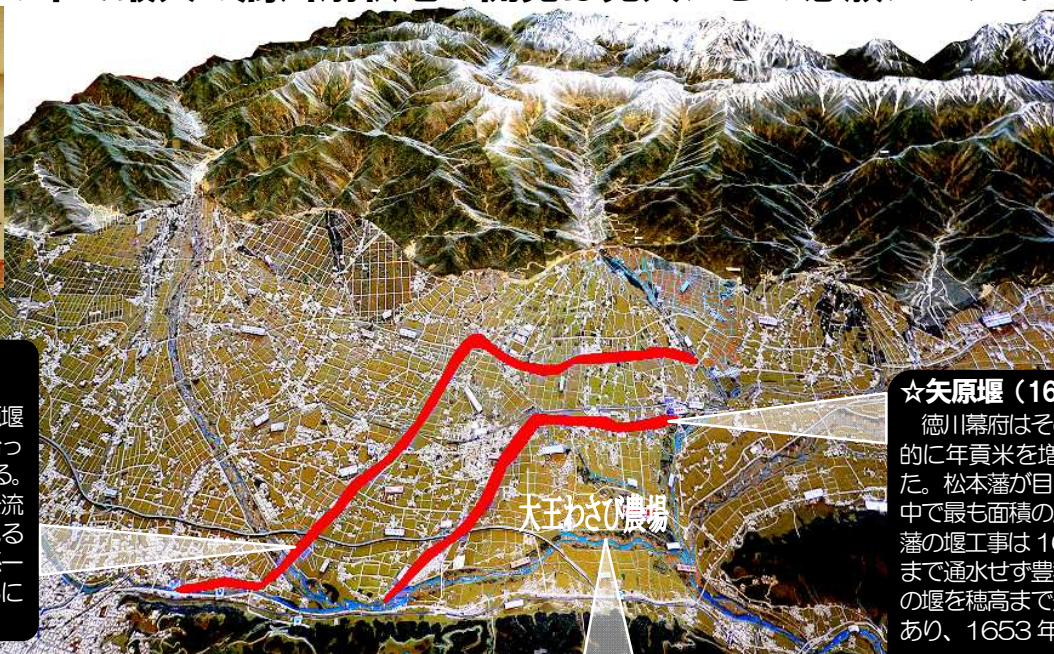
深澤勇市は、常に「人のため」ということを語っていたといわれている。深澤は広大なわさび畑を犀川に向かって作りながら、そこから出された土砂を堤防として犀川の治水も考えながらわさび田の工事を進めた。しかも、わさび田完成までの実に50年近くの間、農閑期に多くの農民をわさび田造成のために雇い入れている。

1941(昭和16)年深澤勇市の死後、事業は二代目に引き継がれ、1961(昭和36)年完成した。広大な大王わさび農場の開拓により、治水による土地、田畑の保全とともに、付近の地下水が排水され、周囲の田んぼが湿田や泥田から広大な乾田になるという業績も残している。そして安曇野といえば「大王わさび農場」が挙げられるような一大観光スポットを個人の力でつくりあげた業績は大きい。

安曇野は複合扇状地。扇状地の扇尖は水のない山林原野、扇端は不毛の湿地帯。その中で最大の烏川扇状地の開発は先人たちの悲願だった！



等々力 孫一郎(1761~1831)



白井 弥三郎(1621~1690)

☆拾ヶ堰 (1816年、等々力孫一郎)

矢原堰開削の163年後、矢原堰の西、標高570mの等高線に沿って開削された横堰が拾ヶ堰である。「拾ヶ堰(約16km)」は松本を流れる奈良井川の水を取って流れる堰であり、1816年、等々力孫一郎、中島輪兵衛、平倉六郎衛門らによって開削された。

☆矢原堰 (1653年、白井弥三郎)

徳川幕府はその基礎を固めるために、全国的に年貢米を増やすための新田開発を進めた。松本藩が目をつけたのが、複合扇状地の中で最も面積の広い烏川扇状地だった。松本藩の堰工事は1642年に始められたが、穂高まで通水せず豊科の細萱で中止となった。その堰を穂高まで通水させたのが白井弥三郎であり、1653年のことである。

安曇野の「命の水」の学習

「矢原堰」や「拾ヶ堰」は、安曇野の複合扇状地の扇尖部分の枯れた大地を水田に変える事業であり、深澤勇市の大王わさび農場造成は、扇状地の扇端の不毛な砂礫の湿地帯を15hにも及ぶ広大なわさび田に変える大事業だった。そしてそれらは、ともに農閑期の冬から春にかけてを主な作業期間とし、人力を主体とした開拓によって成し遂げられた。

安曇野の「命の水」の学習は、江戸時代からの堰づくりに始まり、深澤勇市の大王わさび農場完成に至る流れの中で見るべきではないだろうか。また、深澤勇市と時期を同じくして安曇野の養鱒に尽力した倉科多策もこれらの人物のつながりの中で捉えられるだろう。

矢原堰は、豊科の熊倉から犀川の水を引き、標高545mの等高線に沿ってほぼ水平に堰を開削している。堰の長さは8kmだが、取水口から流末までの高さの差はわずか約1mである。山側から平地に向かって流れる堰を縦堰というが、等高線に沿って水平に流れる堰のことを横堰という。矢原堰は安曇野初の横堰である。

参考文献 「かいどぶっく・安曇野の里『穂高ものがたり』」中島博昭 1977 出版安曇野 「安曇野に八面大王は駆ける」中島博昭 1983 出版安曇野 「犀川 川筋ものがたり」中島博昭 2009 ほおずき書籍 「穂高高原」相馬愛蔵、相馬黒光共著 1980 郷土出版社 「長野県の地場産業」編者市川健夫、竹内淳彦 1986 社団法人信濃教育会出版部 「南安曇教育会百年誌」編者 南安曇教育会百年誌 編集委員会 1988 年南安曇教育会 「穂高わさびの歴史と栽培、加工法」宇留賀浜雄 1977 信州山葵農業協同組合 「命の水」中野正實 1983 豊科町教育委員会 「南安曇郡誌」1923 年南安曇郡教育会 「長野県歴史人物大事典」1989 郷土出版社 「信州群像」1985 中日新聞長野支局 郷土出版社